

2011年3月11日（金）の東日本大震災に対して、発生1週間後以降に行ったボランティア活動について報告する。

1. 福島県南相馬市

1. 1. 日時

2011年4月2日（土）

1. 2. 目的

関西のハートケアプロジェクトから寄贈いただける車いすについて、南相馬市の避難所で必要とされる方についての具体的な情報収集と、つくばの八百屋から寄贈いただける卵や野菜についての避難所での需要についての情報収集を行う。その他、到着物資の集積所への搬入作業等を行う。

1. 3. 日程

4月2日（土）

- 0時 溜池山王集合・出発（高邑議員， 箭内智君， 篠原）
- 6時 南相馬市役所到着
- 7時 南相馬市災害対策本部会議（桜井市長， 市役所各部署責任者， 自衛隊責任者， 警察責任者， 消防責任者， 東北電力担当者など）
- 7時半 渡辺一夫さんらとの行動打ち合わせ（高邑議員， 渡辺さん， 箭内君， 篠原）
- 8時半 南相馬市高島福祉課長と打ち合わせ（高島課長， 篠原）
- 10時 岐阜4区の民主党総支部からの物資（2tトラック1台， ハイエース2台）の移送
- 10時過ぎ 鹿島区への移送途中で沿岸部の津波被害地を視察
- 10時半 鹿島区まごころセンター（鹿島区物資集積場）への物資運び込み（高邑議員， 渡辺さん， 箭内君， 藤井美濃加茂市議， 永澤さん(今井正人代議士秘書)ら， 篠原）
- 12時 相馬市 旧相馬女子高で話し合い
- 13時過ぎ 鹿島区デイケアセンター（鹿島区避難所）を視察
- 14時過ぎ スーパー視察， 地元の人からの聞き込み
- 15時 南相馬市福祉部へ伝言
原町第一小学校（原町区避難所）で車いすの話， 食料の話， 炊き出しの話等聞き取り
- 16時半 小川町体育館に横糸議員の持ち込んだ物資の運び込み
- 17時半 横糸議員を原町第一小， 津波被害地へ案内後， 帰途につく。

1. 4. 被災地についての情報

・被災状況

1日朝時点 死者 333 人， 行方不明者 1,141 名

2日朝時点 死者 349 人の内， 身元判明者は 279 人

自衛隊は 130 人態勢で 13 台の重機を用いた捜索を実施しているが、水が引かずに大量にたまっているために、重機が入れずにいる地域が多らしい。農業用排水ポンプが必要なようだ。

捜索は、20～30 km 圏内では 50%程完了し、20 km 圏内ではほとんど進んでいない。

・津波による被害の様子

交差点の信号機は跡形もなく、鉄塔も真横に倒されている。船が海から 1 km 以上も離れた田んぼの上に横たわっている。どの被災地を見ても、悲しい絵が目の前に広がる。一刻も早く、多くの方の遺体が見つかることを願いたい。また、一刻も早い復興を期待したい。



・避難区域について

20~30 km 圏内の市民は、次々に戻ってきて通常の生活を再開始めている。一方で、屋内退避命令が出ているために、外からの物資や流通は改善していない。そのために、屋内退避命令について解除してくれという声が南相馬市民の中で非常に大きい。ただし、官邸では解除することは当分なさそうで、それどころか現在強制力のない避難区域になっている 20 km 圏内を警戒区域にする可能性があるようだ。警戒区域に指定されると、現在 29 人残っている住民も強制的に退去させられることになる。また、警戒区域になると、中に入ると罰金が掛けられるようになるらしい。

・被災者・避難者の動向

かなり多くの市民が南相馬市内に戻ってきているとの報告があり、すれ違う車の量からもそれを強く実感した。1 日の食料配布時での確認世帯数は、4,661 世帯であり、市内全世帯の約 20%は市内に残っているもしくは戻ってきているようだ（鹿島区では全世帯の 41.3%が残られている）。街の人らに聞いたところでは、奥さんと子供を疎開させた上で、旦那さんだけが仕事のため戻ってきたというケースも多いようだ。学校再開に向けて、子供と一緒に帰ってきたというご家族もいらっしまった。

鹿島区における避難所は、これまで鹿島中学校体育館だったが、第一デイケアセンターに移ったらしい。ここには、76 名が避難しており、ほとんどが鹿島区で家をなくされた方で、7 名が浪江町、双葉町、小高区からの避難者。原町第一小学校への避難者は 150 名程度。相馬市内の相馬女子高への避難者は 557 名で、先週より若干増えていた。内訳は、小高区 228 名、浪江町 27 名、原町区 282 名、鹿島区 19 名とのこと。この旧相馬女子高は、小中学生の学校として使用する可能性があり、避難者を他の場所に移す可能性もあるが、福島県飯坂への避難希望者を調査したところ十数名しか希望がなかったという。仕事や学校の関係で、離れたくない人も多いようだ。子供も、友人や先生と離れるのが嫌だという子供が多いようだ。

新潟県小千谷市からは、バスでの日帰り避難所見学ツアーを小千谷市主導で 4/2 に実施してくれたらしいが、参加者等の詳細は分からなかった。

市の職員が 4 班に分かれて圏内の南相馬市民の避難所を訪問して、様々な情報を収集してきた。避難されている方々の声は、「各種手続きができるように、南相馬市職員を避難所に配置して欲しい」

「南相馬市 3 区の情報が入ってこない。知りたい。」「原発の今後の見通しは?」「自宅がどうなっているか心配。盗難はないか?」「学校の始業はどうか?」などというものだったらしい。

・在宅要援護者

自衛隊千葉第一空挺団による在宅要援護者の確認作業で、183 名の要援護者がリストアップされた。一部の要援護者は、市街への避難もしているようだが、多くは家に残っており、緊急時には自衛隊が避難をさせることとなる。要援護者への食料や生活必需品の配布は、ボランティアセンターが機能しだしていることにより、スムーズに行っているようだ。

・物資・生活等の状況

相馬市内では、イエローハットや車のディーラー、ヤマダ電機なども開いており、通常の生活が戻っているようだ。ガソリンスタンドにも長い行列はない。

一方、南相馬市内原町区では、ガソリンスタンドには長い行列ができていた。ただし、複数個所のガソリンスタンドが営業しているとのことで、需給の改善は進んでいると思われる。スーパーは、30km 圏外の鹿島区では開くところが徐々に増えてきており、そういった店における品揃えは非常によく、少し驚いたが嬉しかった。南相馬市内で開いている店舗についての情報は、南相馬市の HP から得ることができ、20 数店舗が開いているようだが、原町区内で開いているのは小さな個人商店と数か所のコンビニのみであった。また、青果市場が臨時野菜売り場として営業しているらしい。

前回私が来た時に始まった食料配布は、毎週火曜と金曜に行われることとなっており、1 日の配布では 7 種類の野菜・果物から一人一つを選んでもらうこともできたく、嬉しい限り。戻ってきている人も増え始め、商店が開き始めている中で、本当に必要な人がだれかを見極め、どの時点でどう縮小していくかは、今後の課題だろう。ただし、職を失った人も多く、しばらくは継続が必要かもしれない。



・教育について

スーパーや避難所で聞いた人らが最も多く気にかけていたのが、学校の再開についてだった。教育委員会の言っていることと近くで耳にすることが違いすぎて、何が本当か分からないという声もあった。市の職員の中には心ない人もいたようで、子供を連れて帰ってきたことに対して、「仕事と子供とどっちが大事なんだ、こんな危険なところに帰ってきて」と言われたという方もいらっしまった。公的な立場を忘れ、客観的な発言ができなくなっているのは間違っているし悲しいことではあるが、震災以来の激務で、余裕がなくなっており不安になっている職員の方も多いただろうし、第三者としては一概に責められないところだ。

災对本部会議での教育委員会の話では、相馬市内や鹿島区内 30km 圏外の施設において、小中学校の再開の報告で動いているようだが、まだ具体的な話は進んでいないようだった。今の一番の課題は、子供たちへの教育問題と心の問題だと思う。相馬女子高では、建物の外で、ウサギが飼われており、子供たちへの癒やしになっているようだった。

・郵便・宅急便について

郵便局の配達は、30km 圏外の鹿島区では行われているが、30km 圏内の原町区への郵便物は、全て郡山市に留め置かれているらしい。何か工夫して、ボランティアで取りに行き配達する方策はないものかと、高邑議員と話し合ったが、まだ具体的行動にはできていない。

宅急便は、佐川急便が 30km 圏外の相馬営業所まで配達可能で、そこで留め置きになるとのこと。他社も、30km 圏内に宅配する業者はなく、福島市や郡山市に留め置きになっているらしい。こちらについても、何か対応策が必要に思われる。

・畜産業・農業、商工業

災对本部会議での情報によると、県で 70 ヶ所、国で 150 ヶ所の土壌調査を現在行っており、その結果を元に 6 日までに国と県が作付け可能かどうかを決定するという。ただ、どちらにしても、風評被害、塩害、瓦礫、用水路の詰まり等、多くの問題が残っている。用水路については、海まできちんと開通させなければ、上流の被害のない地域でも作付けできないかもしれないとのことだった。農商工業の補償金の仮払いを東電に要求したいとの声も上がっているようだ。

・教育

26 日の災害対策本部会議では、公立幼稚園、小中学校は、当分見通しが立たない。原町高校も見通しが立っていないとのこと。多くの学校で校舎にヒビが入っており、耐震性に問題があるかもしれない。また、他市への通学も安全面で問題があるため、何らかの措置が必要だろうが、市長としては相馬市の学校への通学が現実的だと考えている。

・病院

再開する病院の数は増えている。ただし、現状では入院設備はなく、オペも難しいらしい。震災直後から個人的に鹿島区に入られているつくばの医師の方がおられて、敬服した。4/4～4/8 に、長崎県の医師会が入って在宅訪問診療を実施の予定らしい。

・犯罪について

これまで、空き巣 3 件、電線の盗難 1 件を検挙されたようだ。10～30km 圏内においてパトカー 10 台で 24 人が警邏活動している。

・ゴミ処理

当面毎日ゴミ出しは可能とし、①可燃ごみ、②不燃ごみ、③瓦礫、④家電、⑤危険物の 5 分類になっている。環境省からの指導で、花街区のごみと鹿島区のごみは分けて仮置きする必要があるとのこと。30 km 圏内のゴミは放射性廃棄物とみなされる可能性があるということらしい。

・住宅問題・仮設住宅

鹿島区の千倉グラウンドに仮設住宅を 500 戸建てる話が持ち上がっているが、まだ正式には決定していない。また、鹿島区の寺内・小池に二か所西部住宅環境整備事業の関連の市の広い土地があるようで、そこにも仮設住宅を建ててはどうかという声がある。高邑議員の所に、台湾の仏教会から、定住住宅 3,000 軒を無償提供するという話が来ているそうで、市から上下水道・電気の整備について市の許可が出れば、話を前向きに進められるかもしれない。海岸沿いの復興については、まだまったく白紙である。1,000 人以上の行方不明者捜索がまだまだ続くと思われ、その後も排水作業が必要である

う。農地は塩害によりいつから使用できるかわからないし、住宅地も同じ土地に住宅を建てるのが望ましいかどうかは議論があるだろう。今回津波に襲われた地域の土地を証券化した上で、別の内陸の地を求めてもらうという案もあるようだ。

現在、20km 圏内や 30km 圏内の家を離れて、家族は避難させた上で仕事をするために相馬市内や鹿島区内に家を探している人が多いらしいが、なかなか空いているところが見つからないらしく、そのほとんどが市に借り上げられてしまっているためらしい。今後、家を失った人向けに、これまで空いていた民間の借家を提供していくことになるかもしれない。

ここで、南相馬市が難しいのが、原発からの距離である。何かが起きなければ、このまま放射線量は下がっていくだけなので、30 km 圏内での生活には全く問題はないはずだが、何かが起きると 30km 圏内や 40 km も避難地域にならないとも限らない。また、30km 圏内には、外から物が入ってこない環境であり、非常に不便な地域になっている。これらのことから、30 km 圏内における仮設住宅の建設はしにくい状況であり、30km 圏外の鹿島区でも議論があるかもしれない。市長としては、これまで、何かがあるかもしれないとの前提に立って、市民を全員外部へ避難させようという意向で動いてきたが、逆に市民は戻りつつある。そのため、現状における生活の改善のための住宅や物資について取り組んでいくことになっているようだ。

1. 5. 現地での具体的作業

・荷物の搬入

2t トラックとハイエース 2 台で岐阜から運び込まれた水数トン、カップ麺数百、衣類、大量の生活用品等を、鹿島区の物資集積場であるまごころセンターに運び込んだ。また、横条議員らの持ち込んだ米 310 kg やカップ麺、各種生活用品を小川町体育館に運び込んだ。



1. 6. 個人としての行動

・車いすを必要とする人への寄付のマッチング

関西のハートチェアプロジェクトからの車いすの寄贈先の件で、南相馬市福祉部との打ち合わせや 3 か所の避難所での聞き取りを行った。

ここ数日の間に、小川南相馬市議や福祉部の高島課長と電話で連絡を取り合い、原町小学校と相馬女子高に一人ずつ車いすの必要な方がいらっしゃることを確認していた。まず、その件について県福祉部で再確認と調整の打ち合わせを行なった。原町一小の一人は、体育館で寝る時も起きている時もずっと車いすの上で過ごしているらしく、周りも不安になっているため、できればリクライニング付きの車いすがあればありがたいだろうとのことだった。旧相馬女子高にも一人車いすを失った人がいるが、詳細は分からないらしい。その後、ハートチェアプロジェクトとの連絡をいただいている才野さんと電話で連絡を取り合い、中古ではあるがリクライニング付きの車いすも送ることができるとの情報が得られた。

まず、旧相馬女子高に行き、車いすを要する方にお会いすることとした。旧相馬女子高に行き、市の職員の方（相楽さん）に、車いすを必要とする方のことをお聞きしたいと尋ねると、そういう人のことは分からないとの回答だった。お年寄りの方がトイレに行くときに用いる折りたたみの車いすを市から 5 台借りているので、追加はなくても間に合っているとのこと。結局、普段から車いすを使用されている方で、津波でなくされた方がいると聞いていた方についての情報は得られなかった。既

に他の地域の避難所に避難されたのかもしれない。

次に、鹿島区デイケアセンターに行き、車いすの必要性についてお聞きしたところ、車いすを普段から使用されている方はいらっしゃらないとのことだった。また、お年寄りで車いすが必要な方もいらっしゃらず、非常時には鹿島区の車いすが数台あるということだったので、ここにも車いすは必要ないようだった。

原町第一小学校では、リクライニング車いすが必要だとされていたおばあさんに、当日朝ベッドが提供されており、自分の車いすから降りて寝ることができるようになっていた。ただ、78歳、93歳、95歳のお年寄りの方が、トイレに行くときや外出されるときに車いすを使用されており、市から借りた車いすを共用されているとのことだった。一人のおばあさんに話を聞いてみると、トイレに行くのにも慣れない車いすで時間が掛かり、どの方もトイレに行く前に漏らしてしまうこともあり、次に使う際に拭いたり消毒したりしなければならず、大変だと話された。それぞれの方に車いすをプレゼントさせていただくという話をすると、ありがとうございます、嬉しい嬉しいとおっしゃられ、こちらにも幸せな気分になることができた。その他二人の方もしくはその介護をされている方にも、車いすがあればありがたいと話をいただいた。

原一小的三名に寄贈させていただくことに決めたが、問題はまだある。この原一小は、30 km 圏内にあることから、宅配便のトラックが入ってくるできないのだ。電話で福祉課の高島さんと話し合っ、相馬市の総合卸売市場まで、高島さん宛でお送りし、そこから私が小学校まで持ち込むこととした。また、寄贈目録を市長に渡す件については、帰りに市長室に寄ると来客中だったため、後日車いすを届けられる日が確定したら、アポを取る件を秘書課副主査に告げて、帰路についた。



・避難所等への必要な食材の持ち込み企画

職場近くの八百屋、フレッシュやおかねが卵や野菜を用意できるというお言葉に甘えて、卵や野菜を避難所側が必要としているかを、必要ならばどういったものが必要かを確認するために、避難所での食生活や必要な食材について聞き取りをした。

まず、相馬女子高だが、おにぎりやみそ汁が食事としてあり、毎日のように炊き出しが入っているそう。ちなみに2日の夜はうどん。その場で食材の調理をしているのではないようで、食材はあまり必要ないようだった。鹿島デイケアセンターは、2日夜から、一日三食（おにぎり）をセブンイレブンが入れてくれることになったということで、食材の差し入れは必要ないとのこと。原一小では、小学校ということもあり、学校の調理室が使用できるそうで、避難所での調理も一定行っているそう。卵は、大変ありがたいということで、ゆで卵にもできるし、みそ汁にもできるので、ぜひいただけるならいただきたいとのこと。野菜は、サラダ向けは切ったりよそったりが大変なので、あまり嬉しくないそう。煮物にできる野菜が嬉しいそうで、根菜がありがたいということだった。ちなみに、2日の夜ごはんは、山菜ごはん（写真、アルファ米）とみそ汁だった。原一小では、鹿島区のようなセブンイレブンからの食事の配給はないそう。

また、原一小では、ゴミが尋常でなく多いため、使い捨てでなく洗うことができるお椀やお箸があればありがたいそう。水道は通っているので、洗いもの



はできるとのこと。

ボランティアセンターで行っている、要援護者への食料配布で必要な物は、野菜やお茶の葉、全粥の流動食や飴だそうだ。流動食で、全粥はなかなかないため、みつきたいとのこと。

1. 7. 感想、今後の予定等

朝市役所に着いた直後に市長と会った時に、「篠原君でも内閣府に詰めてくれないかなあ～、内閣府から情報が全く入ってこない。」と冗談をおっしゃられる程度に桜井市長にも余裕が出てきているようで、少しホッとした。当然、相変わらず市役所から帰れない激務なようではあるが。。しかし、内閣府からの市に必要な情報が市まで即時に降りてきていない状態は大きくは変わっていないようで、心配。一週間で交代となった原子力保安委員の後任の方が、うまくやってくれることを願いたい。

高邑議員が、日曜日の夜まで南相馬市に残るということから、夕方に物資を持ってきた横糸議員の車に乗せてもらって帰宅した。横糸議員は、名前や党名も言わずに黙々と物資を運び込み、避難所でもパフォーマンスではない声掛けをされていたのが印象的だった。テレビ等で軽そうなイメージを持っていたが、車の中で言葉を交わしていると、熱い人でいろいろと政策についての論議ができた。

3日の朝、高島課長から電話があり、自衛隊の空挺団が、在宅要援護者 183 人を非常時に移送するために、車いすを 5 台必要としているということを伝えられた。現在、ハートチェアプロジェクトを通して対応可能か確認中で、今後自衛隊への引き渡しを出来るだけ速やかにできるようにしたい。

また、車いすを南相馬に持ち込む際に、必要とされる卵や野菜も持って行くこととする。つくばの八百屋、フレッシュやおかねの金子さんは、とても熱い人で、「どんな要望でも言って、仲間と一緒にできる限り協力するから!!!」と、いきなり飛び込みで説明をした私に対して、嬉しい泣かせる言葉を発して下さった。4 日夜から行く陸前高田でのラーメン炊き出しに対しても、万能ねぎ 60 束ともやし 50 kg を提供してもらえた。ありがたいことだ。

子供たちへの本や遊び道具や、お年寄りの方が楽しめる何かも考えて、持ち込むことも考えていきたい。避難所図書館等も良いかもしれない。